

令和6年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験
ロジスティクス分野
1級 ロジスティクス

試験問題

(4 ページ)

1. 試験時間 150 分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、受験票に記載されている試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、2題あります。なお、問題2は選択式問題となります。選択式問題を選択せずに複数の問題に解答した場合、当該問題は採点の対象としませんのでご注意ください。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1 40点、問題2 60点、合計 100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上且つ問題ごとに30%以上の得点。
- (5) 関係法令、会計基準、J I S等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和6年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) 解答用紙は、問題ごとに各1枚あります。すべての解答用紙に、必ず、①生年月日、②受験番号、③座席番号、④氏名を正確に記入してください。なお、受験番号の最後の桁は、アルファベットですので、数字と間違えないように注意してください。
- (7) 解答には、HB又はBの黒鉛筆、シャープペンシルのいずれかを使用し、問題文に従って、解答用紙に楷書で丁寧に記入してください。なお、判読できない場合には、解答が無効となる場合がありますので、注意してください。
- (8) 解答に当たっては、問題ごとの解答用紙（各1枚）を使用してください。なお、文字数の制限はありません。ただし、解答は、解答欄内のみに記入し、裏面や余白は使用しないでください。
- (9) 下書きや計算等が必要な場合には、下書き用紙を使用してください。
- (10) 記述されている内容の正確さ・専門性に加え、結論に至る論理展開、記載形式、文字の正確さ・丁寧さ等、読み易さも採点の対象となりますので、解答に当たっては、その旨も留意してください。なお、論述に当たっては、文章を補助するため、図表等を使用しても構いません。
- (11) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (12) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (14) 試験終了の合図があつたら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (15) 試験終了後、解答用紙を必ず提出してください。ただし、試験問題及び下書き用紙は、持ち帰ることができます。なお、解答用紙が提出されていない場合は、失格となります。
- (16) 替え玉受験、試験中に受験者間で情報を授受する行為、指定されたものの以外のものを机上に置く行為、カンニング行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (17) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。
- (18) 試験終了後の正解表の公表、合格発表等のスケジュールは、受験票に記載しておりますので、ご確認ください。

〔配点：40点〕

問題1 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

【文章】

トラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が適用されることをきっかけとして、トラックドライバー不足に伴う「物流の2024年問題」に注目が集まっている。しかしながら、トラックドライバー不足は一過性の問題ではなく、根本的な解決施策の実行が社会全体に求められている。

【設問1】

「物流の2024年問題」の背景として全産業と比較した際のトラックドライバーの労働時間等の現状と、「働き方改革」に関連した法律及び改善基準告示の改正内容について記述しなさい。また、「物流の2024年問題」の懸念される影響について記述しなさい。

【設問2】

「物流の2024年問題」の根本的な解決に向けた政府の施策や企業の取り組みについて記述しなさい。併せて、このような取り組みを推進するために関係者間（物流企業・荷主企業等）で考慮すべき重要な点についても記述しなさい。

〔配点：60点〕

問題2 【事例問題A】～【事例問題B】のいずれかを選択した上で問題を読み、それぞれの設問に答えなさい。

なお、【事例問題A】は荷主のロジスティクスに関わる問題、【事例問題B】は物流業のロジスティクスに関わる問題です。現在の職種や勤務状況に関わらず、自由に選択してください。

【事例問題A】荷主のロジスティクスに関わる問題

(1) A社のロジスティクスの概要

A社は中堅規模の加工食品メーカーである。A社は自社製品を主に自社の特約店を通じて販売している。特約店のうち主力は卸売業B社であることから、以下はB社との関係を中心に記述する。B社は他社製品も扱ってはいるが、アイテム数ベースでみるとA社製品の売上が最も多い。

工場から出荷されたA社製品は、同社在庫拠点を経てB社等のセンターに主にトラックで輸送される。A社は在庫拠点の運営を貨物自動車運送の許可も有する倉庫会社C社に委託しており、輸送もC社の自社車両が担っている。

A社製品には賞味期限等の定めがあり、ロット管理が必要であるが、日付情報・数量等は倉庫会社C社のWMS上で管理されている。

A社は、B社から受信した受注情報を元に倉庫会社C社に出荷指示を行う。C社はWMS上で在庫引当を行い、出荷作業を行う。なお、A社、C社ともにB社に対するASN（事前出荷通知）の送信は行っていない。

(2) B社への納品における課題とASNを利用した検品レスの検討

B社センターへの納品時には、B社スタッフが行う納品検品にドライバーが立ち会う慣行である。検品時には、B社スタッフが外観の汚破損、数量等を確認する他、ケース上の日付情報を目視で読み取り、データ入力を行う。その際、検品が円滑に実施できるよう、以下の様な荷役作業をドライバーが無償で実施している。

- ・シュリンクフィルム（ラップフィルム）の撤去及び回収作業

- ・複数アイテムが1パレットに混載されている場合、検品しやすいよう、パレット上にアイテム単位で整理・並び替える作業など

以上の様な諸作業のうち、日付情報や数量入力等に手間がかかっており、その影響もあって、ドライバーの滞在時間が長時間化し、C社から解決が要請されている。

そのため、A社のロジスティクス部長は、ドライバーの検品への立ち合いが課題であるとの認識に立ち、検品レスによる省力化を検討することとした。具体的には、納品時には、数量や日付情報を目視で確認することなく、予め倉庫会社C社から送信されたASNデータを元に、検品レスにてB社に荷受けしてもらうこととしたい。C社からASNを送信す

ることとするのは、メーカーを経由せず倉庫会社から直接、卸に送信する方が、A社及びC社の既存情報システムへの影響が小さいと見込まれたためである。

なお、A社の社長からは、物流コストの大幅な負担増は難しく、本取組みに伴うコスト負担は、効率化によるコスト削減によってカバーすることを求められている。

(3) B社及びC社の反応

以上を踏まえ、A社のロジスティクス部長は、B社及びC社の責任者に大まかな計画を説明した上で、同計画への理解を求めた。その結果、両社とも取組みへは賛同する旨の回答を得たが、以下の様な要望が挙げられた。

B社：システム面は軽微な改修で対応可能であるが、コスト増を避けるため、検品レスによって自社スタッフの作業時間及びコストが減ることが必要である。その意味で、現在ドライバーに実施してもらっている作業協力のうち、改善後も必要なものは何らかの形で継続して欲しい。

C社：是非進めて欲しいが、自社からASNを送信するには、WMS等の改修に相応のコストが必要。但し、ドライバーの滞在時間及び作業負荷が大幅に削減できるのであれば、改修コストをC社で負担することも検討できる。

【設問1】

この事例において、ASNの導入に当たって留意すべき点は何か、述べなさい。

【設問2】

A社のロジスティクス部長として、ASNを利用した検品レスを実現するため、卸売業B社に対してどのように業務の見直しを提案すべきか、述べなさい。

【事例問題B】物流業のロジスティクスに関わる問題**(1) 倉庫会社A社の事業概要**

中部地区にある倉庫会社A社は、500坪の倉庫4棟で加工食品・衣料・日用雑貨などを保管している。

貨物自動車運送業の許可は取得しておらず、保管貨物の輸配送は各荷主が手配したトラック運送業者が行っている。

(2) 主要荷主B社からトラック運送会社C社の買収要望

A社は、かねてからトラック運送部門へ事業展開したいと考えていたところ、主要荷主である加工食品メーカーB社から、「商品配送を委託しているトラック運送会社C社のオーナー経営者が、高齢で後継者もいないことから事業売却を考えている。A社がC社を買収して業務を引き継いでもらえないか」という話が持ち込まれた。

B社の話では、「C社は株式会社だが上場はしておらず、資本金は3,000万円、中部地区に本社営業所があり、2トン車10両、4トン車5両、ドライバーを含む従業員は約20名、B社との取引は約10年」とのことであるが、それ以上詳しいことは分からないという。

(3) B社からの要望への対応

A社としては、得意先のB社からの要望であり、無碍に断ることもできない。

これまで他社を買収した経験はなく、弁護士や会計士等の専門家に依頼して、C社の資産状況や事業上のリスクを詳細に分析し評価する必要があると思われたが、その前に取引金融機関や信用調査機関を使って、C社の経営状況を調査してみた。

(4) C社の経営状況の調査結果

その調査結果によると、C社は、B社の他に数社の荷主や大手運送会社から運送業務の委託を受けており、ドライバーは不足気味ながら、事業は安定して継続していること、財務的には借入金は少なく、小幅ながら黒字経営を維持していることが分かった。

ただし、金融機関や信用調査機関の調査は、与信チェックのための調査内容が多く、コンプライアンス面のリスクは評価されていなかった。

(5) コンプライアンス面のリスクの独自調査

A社としては、C社を買収することによって念願だったトラック運送事業への展開と、倉庫業への効果も期待できそうなことから、C社買収を前向きに検討することにした。

そこで、C社のコンプライアンスの状況などコンプライアンス面のリスクについては、独自に調べてみようと考えた。

【設問1】

トラック運送会社C社を買収するに当たって、A社が独自に調査可能なコンプライアンス面のリスクと、その調査方法を列举しなさい。

【設問2】

C社買収によるA社の倉庫事業にとっての効果と事業リスクを列举しなさい。